



## 今年も大変お世話になりました

師走になり、今年も残すところあと1ヶ月を切りました。今年もコロナウイルスに翻弄された1年になってしまいましたが、10月以降は感染者も減少傾向にあるので、このまま落ち着いてくれるのを心から願うばかりです。来年こそは、きものを着てお出かけしたり、イベントやお祝い事が以前のように再開できることを心から願っております。私どもは呉服屋として、より多くのお客様に着物を着ていただきたいという思いの下、これからもお客様一人ひとりに寄り添う商いをして参りたいと考えております。2021年もたくさんのお客様に支えられ、助けられた1年でした。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！！  
2022年は気持ちを新たに、お客様とともに楽しい着物生活を送ります！



## < 京型友禅染体験を開催しました >

11月17日～20日までいわき店において「京友禅染体験会」を開催しました。友禅染の定番の型友禅染で、足袋や半衿に型染をしました。自分だけのオリジナル作品ができてとても楽しかったです。



桜や梅、タンポポ、苺などの様々な型の中から好きな柄を選んで、半衿や足袋の上のせてしっかり押さえたまま色をさしていきます。専用の筆でトントンと色をさしていくのですが、濃かったり薄かったり、それぞれに個性ある作品が出来上がりました。薄い色に濃い色をのせて暈しを作ったり、みなさんそれぞれに工夫を凝らしてオリジナルで作りました。ちょっとした体験でしたが、本業でやっている職人さんの大変さも改めて感じました。みなさんと楽しい時間を過ごせて良かったです。ちなみに若女将は足袋カバーに苺のワンポイントをしてみました。可愛い足袋になりました♪

予告！

## 新春初売り「福の市」

いわき店・原町店 同時開催

2022年1月5日(水)～1月8日(土)

毎年恒例の新春初売りは、丸洗い券入りのお得な福袋など、お楽しみ企画満載です！  
詳しくは次回のDMチラシをお楽しみに！！

# < よろづ屋 きものがたり～黄八丈～ >

全国の紬や染めの産地のお話や、きものまつわるあれこれをご紹介しますコーナー  
第12回目は、八丈島で受け継がれる植物染の絹織物「黄八丈」

黄八丈は、伊豆諸島の八丈島(東京都)で古くから織られてきた絹織物の総称です。島に自生する植物染料で染められた艶やかで深みのある色と、江戸好みの縞や格子柄が特徴です。その色は、黄、茶、黒の三色で、茶色地は「鶯八丈(とびはちじょう)、黒地は「黒八丈」と呼ばれています。

黄色の糸染は、八丈刈安(コブナグサ)の染液に糸を一晩浸し、翌朝に絞って干します。この作業を十数回繰り返したあと、椿と桐の灰汁で媒染して深みのある黄色に発色させます。鶯色は、マダミの樹皮を煮た液で染め、マダミの灰汁で媒染します。黒色は椎(しい)の樹皮を煮た液で染めてから泥染めを行います。

伝統的な染色方法により、深みのある黄金色の光沢がある黄八丈の絹糸は、平安時代から献上品として扱われていました。江戸時代の初めごろには大奥や大名家専用としていましたが、町人の着用が許されると、粹で華やかな黄色の格子模様は江戸時代庶民の間で大流行しました。

また平織のほかに独特の織り模様を作り出す綾織も特徴の一つです。綾織は光を反射して美しい光沢を出すと共に、身体に添うしなやかさと長い使用に耐える強さを備えます。その綾織の数々は、「めかご」「丸まなこ」「市松織」「本高貴(ほんごうき)」「風通崩し(ふうつうくずし)」「足高貴(あしごうき)」と言われ、複雑なものになると、今では数人の方しか織る事が出来ず、大変貴重なものとなっています。

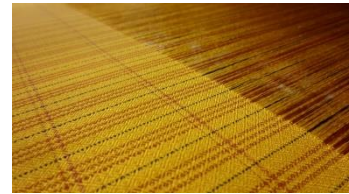
もとは将軍家の御用布だった最高級の絹織物



美しく染め上った糸、黄八丈の色はすべて3色の濃淡で表現されます。



一度は道端で見たことがあるコブナグサ。穂が出始めの頃に収穫、乾燥させて煎じます。



製織途中の黄八丈、「丸まなこ」という地紋はあや織で作られます。

## 長持ちさせるお手入れの仕方

頻繁には洗わない着物や小物だからこそ、着たあとにきちんとしたお手入れが必要になります。着物を脱いだらそのまましまうのではなく、ひと手間かけていつまでも大切に着ましよう。

### ～しまう前にここをチェック～

着物、長襦袢の中で特に汚れやすいのが、衿元、袖口、裾の三ヶ所です。食べこぼしなどの汚れやシミがないか念入りに確認し、素材や汚れの程度に合わせたお手入れをしましょう。

### その1 脱いたら、一日陰干する

着物を脱ぐ前に、まず手を洗いましょう。着終えた着物はすぐに片づけるのではなく、着物や帯はもちろん、長襦袢、紐類まで、ハンガーや椅子にかけて風通しの良い場所に一日ほど陰干しておきます。湿気を帯びたままにしていると、カビの原因になり、落とすのが大変難しくなります。また、着物を和装ハンガーにかけっぱなしにしておくと、型くずれの原因になるので、2、3日以内に片付けましょう。脱いだらすぐに干すだけで、ほとんどのシワが取れます。

参考文献:着物の辞典 大久保信子監修

今月のおすすめ!

たかはしきもの工房  
空芯才DX-デラックス-  
3,190円(税込)



今回ご紹介するのは、たかはしきもの工房の売り上げランキングNo.1、どんな帯にもおすすめの麻に変わる涼しい新素材メッシュ帯枕「空芯才DX(くうしんさいデラックス)」です。この帯枕、本当にすごいです!まず、他の帯枕では考えられない立体メッシュ構造で、ぐにゃと驚くほど曲がります(笑)この丁度いい柔軟性のため、体に優しくフィットして背中に当たる部分が痛くないんです。長時間の車での移動などで背中が当たっていても辛くないし、しかも潰れることもなくお太鼓の形もキープしてくれます!また、他の帯枕に比べて長さが25cmあるので帯の端から端までしっかり支えてくれますので、綺麗にお太鼓が作れます。さらに枕紐は伸縮性があり、きゅっと締まりますがほどよく伸びて苦しくない。紐があたって脇の部分が痛くなることもありません。しかも洗濯機で洗濯OK!ネットに入れて簡単に洗えます!もうこの帯枕以外は考えられません!!

・・・若女将のつづき・・・

早いもので12月。やはりこの季節といえば街にあふれるイルミネーションですね。先日、南相馬市の小高区で開催された「あかりのファンタジーイルミネーションinおだか」の点灯式で司会のお仕事をさせていただきました。点灯式で、私がカウントダウンをするのですが一斉にイルミネーションが光る瞬間はため息が出るほど綺麗でした!「あかりのファンタジーイルミネーションinおだか」は来年の1月10日までの毎日午後5時から8時に開催しています。小高浮舟ふれあい広場や、小高交流センターなどで見ることができますので、足を運んでみてください。

